

処遇改善を重視

特定技能外国人制度解説

鉄工協定例会



技能受入計画の作成」について説明し、会員らは熱心に耳を傾け理解を深めた。

飛田理事長は江口部長らの説明に感謝した上で「現実的にはいま、外国人労働者の手を借りる必要があるが、やはり、若年労働者を呼び込まなければいけない。そのためにも給料を上げる必要がある。処遇の改善に取り組むことが大事だ」と力を込めた。さらに、下請組織（2次下請け以降の業者の協力組織）の設立に触れ、「これからつくり上げていくもの。皆さんの意見を聞かせてほしい」と会員に求めた。写真。

懇親会の中で、江口部長は、さまざまな地域、職種の団体に制度説明を実施している状況を伝え、トップランナーとして鉄筋施工の取り組みが持つ意味を説きながら、「外国人労働者が人材確保の一助になるよう、制度を円滑に適切に運用していきたい」と述べた。懇親会では、第3回全国鉄筋技能大会「TETSU-1 GRAND PRIZE」に鉄工協代表として出場した種山匠さんと、19年度後期技能検定で成績優秀賞の相場海風さんを表彰した。飛田理事長は種山さんの健闘をたたえ、敢闘賞の表彰を行い、サポートした協会関係者に対して「代表選手が別の会社の社員でも練習を手助けする。これこそが鉄工協で誇りに思つ」と感謝した。

J A C が外国人 受け入れ制度解説

鉄工協 第2回定例会

④と遠藤P L



協同組合東京都鉄筋工業協会（鉄工協、飛田良樹理事長）は、東京都千代田区のホテルメトロポリタンエドモントで11月29日に2019年度第2回定例会を開

いた。組合員企業が開発したCADを説明。建設技能人材機構（JAC、才賀清二郎理事長）の江口大暁管理部長と遠藤眞一事業部PLは、特定技能外国人の受け入れ制度を解説した。CADソフトはGUSU KU（千葉県市川市）の新城博幸代表取締役が説明した。拾い出し作図CAD「add cad 23（鉄筋施工図LBI）」の実演を交えて解説し、職長が行う拾い出し作業の支援で生産性向上が実現できる利点を紹介した。組合の共同購買商品で各社の活用を呼び掛けた。

JACの江口部長は、改正出入国管理法で新たな在留資格（特定技能1号、2号）が創出された背景を交え、型枠施工や鉄筋施工など建設業の11技能職種で受け入れが始まった制度を説明した。適正な労働環境を提供する観点からJACに直接、間接的に加入することを求めることなどを解説。全国鉄筋工事業協会（全鉄筋、岩田正吾会長）から出向中の遠藤PLは、受け入れ企業が国土交通相の認定を取得しなければならぬ受け入れ計画の策定など実務に沿った内容を詳しく説明した。

飛田理事長は全鉄筋に新しく発足した労務委員会の委員長として外国人材の受け入れも視野に2次下請を傘下に収める新しい会員制度を創設したことを報告。在職出向の形で他社現場に出向くことができる仕組み作りも進めていることも紹介した。鉄筋工事が端境期となる中で仕事が減少している実情に触れ「忙しければ単価が上がり、暇になると下がるようなことはやめたい。そのためにも安定した仕事量が確保できるように全鉄筋も努力していく」と述べて組合員の協力を求めた。